

令和 7 事業年度

決算報告書

自：令和 7 年 4 月 1 日

至：令和 8 年 3 月 31 日

国立大学法人総合研究大学院大学

令和7年度 決算報告書

国立大学法人総合研究大学院大学

(単位：百万円)

区 分	予 算 額	決 算 額	差 額 (決算－予算)	備 考
収入				
運営費交付金	1,950	2,028	77	(注1)
施設整備費補助金	-	-	-	
補助金等収入	268	264	△ 4	(注2)
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	-	-	-	
自己収入	194	220	26	
授業料、入学料及び検定料収入	191	215	23	(注3)
雑収入	3	5	2	(注4)
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	103	107	5	(注5)
引当金取崩	-	-	-	
長期借入金収入	-	-	-	
貸付回収金	-	-	-	
目的積立金取崩	117	63	△ 54	(注6)
引当特定資産取崩	-	-	-	
出資金	-	-	-	
計	2,632	2,681	50	
支出				
業務費	2,261	2,108	△ 154	(注7)
教育研究経費	2,261	2,108	△ 154	
施設整備費	-	-	-	
補助金等	268	264	△ 4	(注8)
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	103	104	1	(注9)
貸付金	-	-	-	
長期借入金償還金	-	-	-	
大学改革支援・学位授与機構施設費納付金	-	-	-	
出資金	-	-	-	
計	2,632	2,476	△ 156	
収入－支出	0	206	206	

(注) 決算報告書の金額については、百万円未満の端数を四捨五入して表示しております。

○予算と決算の差異について

- (注1) 運営費交付金については、令和7年度補正予算「物価・人件費の上昇等を踏まえた国立大学の教育・研究基盤維持経費」(62百万円)の配分および特殊要因経費(退職手当)の追加配分(14百万円)があったほか、令和6年度ミッション実現加速化経費(障害学習支援分および学術情報流通活性化分)繰越額の増加(2百万円)等により、決算額は当初予算額に比して77百万円多額となっております。
- (注2) 令和6年度科学技術人材育成費補助金(4百万円)および次世代AI人材育成プログラム助成金(4百万円)が当初見込みより増額した一方、次世代研究者挑戦的研究プログラム助成金(12百万円)が減額したこと等により、決算額は当初予算額に比して4百万円少額となっております。
- (注3) 授業料、入学料及び検定料収入の差異については、在学生の増加等による授業料収入の増加(19百万円)、入学者数が予算段階の予定数を上回ったことによる入学料収入の増加(5百万円)等により、予算金額に比して決算金額が23百万円多額となっております。
- (注4) 雑収入については、主に資金運用による受取利息が予算段階の見込額を上回ったこと等により、予算金額に比して決算金額が2百万円多額となっております。
- (注5) 予算段階で見込んでいた受託研究等収入(4百万円)、寄附金収入(10百万円)が多額であった一方、受託事業等収入(4百万円)、科学研究費補助金間接経費等収入(6百万円)が少額だったため、予算金額に比して決算金額が5百万円多額となっております。
- (注6) 目的積立金取崩については、事業計画の見直し等により予算金額に比して決算金額が54百万円少額となっております。
- (注7) 業務費については、経費の節減及び効率的な執行等に努めた結果、予算金額に比して決算金額が154百万円少額となっております。
- (注8) (注2)で説明したことに伴い、令和6年度科学技術人材育成費補助金(4百万円)および次世代AI人材育成プログラム助成金(4百万円)の執行額が当初見込みより増額した一方、次世代研究者挑戦的研究プログラム助成金(12百万円)の執行額が減額したこと等により、決算額は当初予算額に比して4百万円少額となっております。
- (注9) (注5)で説明したことに伴い、受託研究費(7百万円)の執行額および寄附金による支出(5百万円)が多額であった一方、受託事業費(4百万円)、科学研究費補助金間接経費(6百万円)の執行額が少額だったことにより、予算金額に比して決算金額が1百万円多額となっております。